

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

25年7月31日

学 校 名		奨 学 金 交 付 年 度	24年度	
氏 名				
留 学 期 間	平成 25 年 4 月 19 日 ~ 25 年 7 月 20 日			
留 学 先	国 名	カナダ	学校名	カルガリー大学
専 攻	英米文化専修			

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

カナダへの3か月の留学が終わり、帰国しました。3か月という短い期間でしたが、この期間で様々なことを経験し、新しい発見がたくさんあり、自分自身とても成長したと感じています。

この留学は私にとって2度目の留学でした。前回は約1年前にアメリカに1か月短期留学を経験しています。その留学以外にも、以前から何度か海外旅行の経験があったので、海外生活にはまだ慣れていると思っていたのですが、今回の留学は今までの経験とは全くかけ離れているように感じました。行く以前から、この留学で今まで経験したことがないことをたくさん経験するだろう、と予想はしていたのですが、その新しい経験は今までの自分の考え方や価値観をがらりと変えることにつながりました。どの点が新しい経験だったかという例をいくつか挙げると、3か月という今までの海外滞在日数から考えると私にとっては長期海外滞在、ホームステイという新しい滞在形態、今まで名前しか知らなかったような国から来た友達との出会い、また3か月の滞在中、現地過去90年で最大規模の洪水という大きな自然災害も体験しました。今まで使ったことのないような気持ちをこの3か月でたくさん使いました。1つ1つの出来事に、嬉しかったり感動したり、もどかしかったり、悲しかったりと、毎日気分がコロコロ変わり、自分自身に疲れることもありました。日本にいる時であればたいして大きな出来事ではないことも、環境が全く違うことが影響して1つの出来事に対して気持ちのふり幅がとても大きかった気がします。

私はカナダのカルガリー大学のESL(English Second Language)というプログラムを3か月受けました。英語を第二言語とする生徒が世界各国から集まり、共に文法・読み書き・話し方、聞き取りの3クラスの授業を自分に合ったレベルに分かれて毎日受けるプログラムです。これらの授業で英語を基礎からきっちりと学ぶことにより、日常生活で多く活

も身近な存在です。ただ自分の知り合いだけで、その国の人の気質や性格はこうだ、と言
い切るのはいかがでしょうかと思いますが、私たち日本人とはとても違う性格や考え方を
常と一緒にいて、文化の違いやお互いの英語に対する気持ちを話し合うのはとても興味深
かったです。彼らはとても情が厚く、誰に対してもフレンドリーで暖かく、何事に対
しても一生懸命です。日本人を含めアジア人は、周りの空気を読んで感じ取る民族性がある
と思います。しかし彼らは疑問に思ったことや感じたこと、理解できなかったことは多少自
分の英語や意見に自信がなくとも、周りの空気に関係なく積極的に発言したり、質問を投
げかけたりします。例えば、私が現地のレストランに行き、店員さんとの会話のなかで相
手の言っていることが理解できなくなったとき、私は諦めて相手にすべて任せます。頭に
「私の英語では自分の言いたいことをしっかりと伝えられないかもしれない」という不安
があるからです。しかし、南米系の友達には違いました。例えば自分の英語力が高くなくても、
店員さんが少し困った顔をしていても、自分自身が納得できるまで相手にしっかりと自分
の気持ちを伝えます。私自身、この彼らの姿勢には影響を受け、最後のほうにはしっかりと自
分の言いたいことを伝えられるよう、より積極的になった気がします。また彼らは自分
の国をととても誇りに思っていることがよく分かりました。相手の国のことを尋ねたとき、彼
らは目を輝かせながら一生懸命説明してくれました。そして自分の国のことをよく知って
います。日本の土地の大きさと比べると、彼らの国は何倍も大きいですが、気候や人口、
行事などすべてを上手に説明してくれました。また、彼らの国の現状を聞いていると、日
本がどれだけ安全で幸せな国かを実感しました。ベネズエラ出身の友達に「日本は週に何
人の人が殺されるの？」と普通の顔で聞かれたときには、とても驚きました。1人でも殺
害されたら大きなニュースになる日本ですが、南米ではそんなことはないようです。南米
は、犯罪があふれかえっている国が多いようで日本の安全さを伝えると、「いつか私の国
も日本の国のような環境になることを願っている」と話してくれました。彼らの国は政治
に大きな問題があるようで詳しく話してくれましたが、私は日本の政治問題についてはあ
まり詳しくなくて、なかなか上手く話せませんでした。今、私は色々な国の情勢や文化に
ついてとても詳しくなったので、帰国した今もっと自分の住んでいる国のことをたくさん
知り、誇りを持とうと思いました。

しかし、私の住んでいる大阪のことはしっかりとアピールしてきました。関西の風景や
名物食べ物の写真や動画を見せてたくさんの友達に大阪に興味を持ってもらえたと思
います。たくさんの友達が「いつか日本に行くときには大阪に遊びにいくね。」と言
ってくれました。外国の方は、日本といえば首都である東京や京都を一番に思い浮かべると思
いますが、私の友達は日本といえば大阪が真っ先に頭に浮かぶと思います。大阪は人情を
とても大切にしている、皆さんとてもフレンドリーだ、ということを伝えると「日本の中
で私たちの雰囲気が一番あう場所は大阪かもしれない」ととてもフレンドリーな気質を持
っている南米系の友達たちが言っていました。私もそう思います。彼らが日本に来るとき
には私が大阪を案内することを約束しているので、その日が来ることを待ちきれません。